

第1回蒲郡市ヘルスケア計画策定協議会 会議録（要旨）

■日時：平成25年7月3日（水）午後1時30分から午後3時30分まで

■場所：蒲郡市役所新館5階庁議室

■出席者：（委員） 河邊義和委員、津下一代委員、岩尾聡士委員、小池高弘委員、
小澤素生委員、小澤洋介委員、瀧本陽介委員、金子哲三委員、
鈴木良一委員、大原義文委員、鈴木富次委員

（オブザーバ） 浅野俊明氏、大野康史氏、西本洋氏、柴田和久氏

（市・事務局） 市長 稲葉正吉、事務局 企画広報課 吉見和也 他2名

■次第

1. 市長挨拶

- ・稲葉市長あいさつ

2. 委員委嘱

- ・委員を代表して小池委員に市長から委嘱。その他の委員は机上に配布。
- ・事務局より委員紹介【資料1】

3. 趣旨説明

- ・本協議会設置要綱及び本計画の趣旨について、事務局より説明【資料2・3】

4. 座長及び職務代理者選任

- ・岩尾委員の推薦により、全員一致で瀧本委員を座長に選任
- ・瀧本委員の指名により、小池委員を職務代理者として選任
- ・瀧本座長、小池職務代理者よりあいさつ

5. 議題

（1）調査状況及び計画構成イメージの説明

- ・有識者ヒアリング調査の結果概要（中間報告）【資料4】、本計画の構成イメージ【資料5】について事務局より説明
- ・データでみる蒲郡市の現況【参考資料1】、ヘルスケア分野の動向及び主な上位・関連計画【参考資料2】についても、項目のみ確認

（2）意見交換

【目指すべき姿】

- ・蒲郡市は高齢化の先進地域で健康課題も抱えている。伸びしろがある地域であり、健康だから住みたいというプラスの連鎖が起こるようなパイロットモデルを目指してほしい。
- ・日本が高齢化を乗り越えたら、それは他国への輸出産業になりうる。
- ・30－50年後には、予防が進むことで、医者いらずのまちづくりが長期的な目指す姿ではないか。

- ・二番煎じでは意味がない。本市ならではの特色や優位性により差別化を図れるような取り組みが大事である。
- ・蒲郡市は、海、温泉、ラグーナ、食など、楽しく健康づくりできるモデル都市になりうる。

【健康づくりの課題】

- ・地域によって健康状態の格差が大きくなっている。個人の努力だけでは改善が難しく、環境や風土を変えていくことが必要である。
- ・いつまでも元気に活動ができ、仕事ができるまちであることが、地域の活性化にも結び付く。
- ・要介護状態が 27%ということは、逆に 73%は介護保険を使わなくても暮らせているということであり、その率をどうやって高めるかが課題である。
- ・健康意識を高める啓発のための材料として悪いデータをつかうこともできる。
- ・身近なデータを示して住民の競争意識を持たせることも必要である。
- ・運動を気軽に始められるようにハードルを下げれば楽しい健康づくりにつながる。
- ・健康づくりに「手遅れ」はない。また、なるべくはやくから始めたほうがいい。
- ・健康づくりの行動に移して続けていくためには「楽しさ」が大事である。
- ・市民参加型のイベントとして、例えばラグーナなどで健康づくりの企画をやってみてはどうか。
- ・性・年齢別に健康処方ができる時代になってきた。対象年齢にあわせた健康情報やメッセージを出していくべきだ。
- ・なかなか若い人が動いてくれないことが悩みである。若い世代の予防意識の向上などにつながる施策が必要である。

【ヘルスケア関連産業の集積】

- ・ヘルスケア産業の集積については、新たな集積はハードルが高い。
- ・蒲郡らしさを出していくために、市内先端企業の医療分野、再生医療分野などが、特徴を生かせる分野ではないかと考えている。
- ・蒲郡市に住んでいると、眼科で特化した健康診断が受けられる、という特色も作れるのではないかと。
- ・豊かな自然や温暖な気候、立地環境などを生かして、超急性期から在宅型までを、広域での垂直統合型のモデルを立ち上げて、それらをリタイアメントコミュニティとして作っていったらどうか。
- ・市民と市内の先端企業のニーズや特徴を生かして、つなぎあわせて補完し合えるような仕組みを作っていきたい。

【アウトバウンド型のサービス】

- ・海外からの富裕層も呼び込んで長期滞在型のサービスを提供して、その仕組みをパッケージとして海外にアウトバウンドで持っていくことができるのではないかと。
- ・医療そのものはマーケットに限りがある。医療周辺の健康増進ならば、市の特色である観光と絡めて大きなマーケットにもなりうる。

- ・再生医療は注目されているが、ビジネスとして展開する場合は本気で取り組む必要がある。ただ、再生医療の法規制の見直しについて、国の動きも活発になっている。アウトバウンドの視点も必要である。

【インフラの整備】

- ・基盤として、災害時にも役立つエネルギーや情報通信基盤が整備されていることが必要になると考えている。

【地元経済界としての支援】

- ・「蒲郡で若返ろう」を合言葉に、ラグーナでノルディックウォーキングのコースを整備して大会や講座を開催するなど、アンチエイジングの具体的な取り組みを進めている。こうした既存の資源を生かし、健康な地域づくりを支える産業面の活性化を図りたい。
- ・社会保障や医療費の増大を抑えるために、早いうちから健康づくりに取り組む必要があり、これには、民間の産業面を伸ばしていくことが求められる。
- ・東三河経済広域連合会においても、東三河ヘルスケア委員会が設立されており、より大きなマーケットとして、東三河、三遠南信という広域の市場で取り組んでいくことが大事である。

6. 事務連絡

- ・事務局より、第2回協議会の開催予定を説明

終了